

「までいな家」通信

2月号

◆◆住まいの【Q値】と【C値】◆◆

「断熱性」と同様に高めておきたい「気密性」

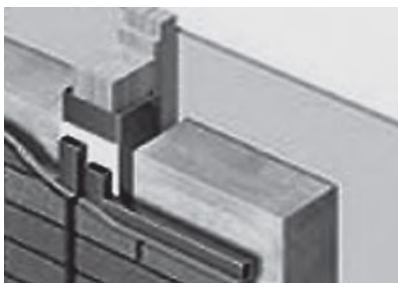
住まいの断熱性を現す【Q値】という指標は、建物から逃げる熱量を現した数値で、断熱材の種類・厚さ(mm)・開口部などの熱伝導率や断熱性能を表す数値が分かれば、計算で求めることができます。

【Q値】は数値が小さいほど断熱性が高い住宅と言えます。までいな家の【Q値】は1.48w/m²・kで、次世代省エネ基準のⅡ地域の基準値は1.9w/m²・kなので、断熱性が基準より高い住宅です。

また、住宅の性能には「気密性」を現す【C値】という値があり、建物にどの位隙間があるかを表した値で、【C値】は、数値が小さいほど隙間が少なく、気密性が高い住宅となります。

「断熱性」や「気密性」を上げるためのポイントをご紹介します。

(1) 断熱材を隙間なく充填すること <壁に充填する高性能断熱材>



断熱材自体に性能の高い材(熱伝導率の低い高性能グラスウールなど)を使用することはもちろん、断熱材の隙間やズレなどは断熱性能の低下を招くため、高性能な断熱材を隙間なく充填することが大事です。気密性能が悪いと断熱層を隙間風が通り抜け、断熱材の性能が発揮できなくなりますし、住宅の耐久性に悪影響を及ぼす壁内結露の危険も高まります。

(2) 断熱性の高い窓にすること <断熱性の高いサッシ・ガラスは、熱損失を防ぐ>



室内から逃げる熱の50%が開口部(窓)からと言われるほど、開口部は熱の損失が大きい場所です。だからこそ、断熱性の高い開口部にすることが求められます。室内側のサッシ枠に熱伝導率の低い樹脂を使用し、日射・紫外線の反射率に優れた「エコガラス」とも呼ばれる低放射複層ガラスを組合せたサッシなど、高い断熱性能を有した開口部であれば、高い効果が得られます。窓は家の隙間の大きな原因の一つでもありますので、気密性の高いサッシを選ぶことが重要です。

◆◆薪ストーブの魅力と蓄熱効果◆◆

エコハウスまでいな家には写真のような薪ストーブが設置されています。今の季節は出勤するとすぐに薪をくべ、部屋を暖めます。やがて、薪ストーブが発する遠赤外線効果で、広い土間空間は勿論、外から帰ってきてもすぐに身体の芯まで温まります。

薪ストーブの裏手には蓄熱する石が積んでありますが、暖められた石の熱を長い時間室内に放熱させるための工夫です。午後から夕方まではできるだけ新たな薪を補給せず、蓄熱エネルギーを有効に活用する住まい方を実践中です。

毎朝、地中と基礎、室内の温度をチェックしていますが蓄熱と断熱性の高さには驚かされます。



省エネ住宅・低炭素住宅のご相談は「までいな家」電話68-2850(火~土・日も開館中)

農業委員会からのお知らせ

《遊休農地解消に向けた農業委員会の役割を学ぶ研修会を開催》

12月21日定例総会終了後、福島市で福島県農業会議から講師を招き、村農業委員全員の参加により研修会が開催されました。

この研修会は平成21年12月に農地法が改正されたことにより、農業委員会の新たな役割として毎年1回「農地利用の状況についての調査」が義務付けられたことによるものです。

研修会では、遊休農地の有効利用と農地としての再生に向けた国補助金の活用について、また、今後農業委員会としてどのような取り組みをしなければならないかなどについて学びました。



▲研修会のようす

委員たちは、今回の研修会を終え、遊休農地解消に向けて農業委員の役割がいかに重要であるかを実感し、研修の成果を今後の活動に活かしたいとしています。

【農地等の贈与税納税猶予について】

納税猶予の適用を受けている期間は、猶予の適用を受ける農地に移動等がある場合、猶予を受けている税額等について精算が必要となります。適用農地についてのご確認と適正な管理をお願いします。また、3年目毎の継続届の該当者においては、忘れずに届出を行ってください。

☆納税猶予の打ち切りについて

納税猶予を受けている場合でも、猶予の適用農地が下記に該当する場合には納税猶予が打ち切りとなります。納税猶予が打ち切りになると、猶予されている税額とあわせて利子税等についても納付することになります。

【納税猶予が打ち切られる主なもの】

対象農地面積の20畝を超える譲渡、転用、貸借、利用権設定等があった場合には納税猶予が全て打ち切りとなります。また、同様に対象農地面積の20畝以内の譲渡、転用、貸借、利用権設定等については納税猶予の一部が打ち切りとなりますのでご注意ください。

○お問い合わせ 飯館村農業委員会 (☎42-1629)